

製造業第1部会・第2部会合同正副部会長会 議事録

日 時：令和3年11月18日（木）13：30～15：00

場 所：春日井商工会議所 1階 小会議室

参加者：9名

【第1部会】秋山部会長、加藤副部会長 【第2部会】風岡部会長、山田副部会長

【事務局】山田専務、鈴木局長、蟹江課長、仲野補佐、堀部

議 題：

- (1) 今年度部会事業の進捗状況について
- (2) 外国人雇用状況調査アンケートの集計結果について
- (3) 会員拡大に向けた部会の取り組み
- (4) 次年度製造業部会事業について（意見交換）
- (5) その他

愛知産業科学技術総合センター 工学博士小久保氏より施設及び事業概要を紹介

はじめに、秋山部会長・風岡部会長より挨拶。

議題（1）今年度部会事業の進捗状況について

事務局より、今年度進捗状況について説明。

【健康診断】2回終了。3回目は12月10日に実施予定

【セミナー】①フォークリフト（3回）、②職長教育（1回）→例年通りの事業で、今年度は終了。概ね受講者の確保ができた。③RPA業務改善ビギナー研修→PCを用いて、NTTが開発した「Win Actor」のソフトを活用し、事例紹介を踏まえた業務改善に繋がる研修を2回開催。④補助金・助成金に活用できる経営計画策定セミナー→コロナ禍における新たな販路開拓に向けた事業計画の見直し等での経営計画の策定が必須となり補助金、助成金に活用できるセミナーを2回実施。2回目は12月3日に実施予定。現在セミナーは6名、個別相談会は3名が参加予定。本日の資料にチラシを添付しておりますのでご確認下さい。⑤DXセミナー（仮称。3/2開催予定）→講師と先日打合せを行った。「DXとは何か」と言っても分かりにくく、事例紹介を踏まえた内容で開催予定。案内は現在作成中。1月号の会報にて案内予定の為、是非参加頂きたい。

【外国人労働力の活用支援】①ベトナム人向けの日本語教室（現在実施中）→以前は中国人向けに実施。今年度はベトナム人向けの需要が高かった為、ベトナム人向けに企画開催。受講者のレベルがバラバラであり、個々のレベルに合わせた指導を行っている。②市内監理団体との情報交換会（12/7に開催予定）→各監理団体の受入れ状況や今後の動向など情報交換を行う。③外国人向けフォークリフト（2月開催 計6日間）→以前からニーズがあった内容。通訳や教える側がいない等の課題があったが、秋山部会長より豊山町にある中部技能

センターを紹介頂き開催する運びとなった。各言語の通訳スタッフがおり、対応頂ける予定。また、宿泊施設も完備している。本日の資料にも添付しているが、12月号の会報にて案内予定。④先進企業及び外国人技能実習生を受入れ成功している企業視察会（動画配信）→動画作成にあたり先日打合せを行った。生産性向上・業務効率化委員会において、内容等のプレゼンを行っていただき、受入れ企業の募集をかける予定。動画の撮影で終わるのではなく、企業のPRにも繋がるような内容を検討している。委員会と部会より1社ずつ選定予定として、今年度中に当所HP内にて配信できるように準備を進めているところである。

今年度の部会方針として、有益な情報発信と共有システムの構築についても、動画配信も一つの情報発信のツールとして取り入れることができるので、今後様々な形でシステム構築を検討予定。もう一つの将来を見据えた外国人労働力の活用支援についても、今年度、日本語教室や外国人向けのフォークリフトを開催予定だが、他の技能講習も開催してほしいと声があり、次年度以降、様々な技能講習を開催するような形で進めたいと考えている。

仲野：今年度の部会事業につきましては、中止をすることなく順調に遂行できている状況であり、報告といたします。また意見等を伺いたい。

風岡：全体的には順調に各事業の遂行を行っていると思われる。昨年と比較し、感染対策を講じながら開催しており、多くの方に参加頂けているように思う。今年度の事業実施状況について、皆様からご意見を頂きたい。

山田：外国人の雇用がどの程度盛んになっているのか現状を知りたい。次の資料にある外国人雇用をしていない企業数が207件あり、そんなに多くないようにも感じるが、毎年雇用企業は増加傾向にあるように思う。今後、さらに増加傾向になるようであれば、外国人向けのセミナーが充実すると良いと思う。

風岡：コロナ禍において、約2年近く、技能実習生が入国できない状況にあり、受け入れたくても受け入れられない又はコロナ禍で事業を縮小した理由等で雇用していない企業があると思う。今後経済も回復すれば、さらに人手不足に陥ると考えられる。

11/8より入国制限が緩和されたので、ニーズとしては今後増えてくると思う。外国人雇用については今後もテーマとして取り上げて挙げていくべきだと考えられる。

加藤：様々な為になるセミナーを開催しているが、中々協力できない為、申し訳なく思う。現場に伝えてはいるが、多忙の為現場から人を出すことができず困っている状況。従業員の休みの日に受講させようと思うと、家庭の事情等があり、中々難しいところである。過去に中国人の技能実習生を雇用したことがあるが、期間が短く感じた。技術を習得して一人前になるには最低10年かかる為、2年や5年で帰国されると何ともならない。当時、言語や宿舎の問題もあった。ベトナム人の方は優秀な人が多いと聞くが、今のところ外国人の雇用予定はない。

風岡：12/7の監理団体と情報交換会でも話が出ると思うが、実習生の制度も大きく変更さ

れる予定。元々3年の制度だったが、優秀であれば2年の延長が認められ、最長で10年まで可能となる。さらに10年就労していると、永住権の取得ができるようになり、今後も日本で就労することが可能となる。今後、部会の中でも新しい情報が入れば発信できると良い。そうすると外国人雇用について目を向けて頂きやすくなるように思う。

秋山：自身も参加できない状況で申し訳なく思う。

昔は中国人が多いように感じており、会話を聞いていても喧嘩しているようにしか聞こえないという印象だったが、最近近隣の商業施設に行くとベトナム人らしき人が増えてきているように感じる。過去に住んでいた集合住宅では中国やブラジルの方が暮らしており、その国々の文化や生活習慣の違いからか、水を撒いて掃除をしている方がおり、下の階まで水濡れになっていたこともあった。ベランダでサッカーやBBQをやっている家庭もあったと記憶している。

風岡：11/7に日本語教室の初日に参加した。講師の山本先生の授業の進め方が、日本語を教えるというよりも生活習慣やそれぞれの会社に必要とした日本語を中心に教えていくといったスタイルであった。他国では当たり前でも日本では違うといったことを分かりやすく指導していたように思う。講師は日本人で、授業は日本語で進められている。次年度は、全ての外国人労働者を対象にした勉強会を実施したい旨、話をしている。外国人にとっての課題としては、文化の違いが一番大きいので、しっかりと指導して良ければいいと思う。

山田：風岡部会長の企業の受入れ国籍は。

風岡：エンジニアとして8名、ベトナム人を雇用中。技能実習生と違って、エンジニアは高度人材と言われている。基本、日本人と同じ扱いをしており、転職もできるような人材を雇用。現地や日本でも日本語の勉強はしている方ばかりである。

山田：雇用した感想があればお聞きしたい。

風岡：優秀。雇用当初は、最低賃金にプラス α 程度の雇用契約だった。

日本人よりも勤勉であり真面目なので、今年に入ってから日本人と同等金額の賃金に上げた。2月の外国人向けフォークリフトに弊社から7名受講させる予定。免許を取得したいと前向きであり、個人負担でも取得したいという気持ちでいる。

山田：言葉の問題はないか。

風岡：全くない。入国の時期によって様々だが、入国したての実習生は厳しい部分もあり、勉強会が必要に感じる。基本、日本人と一緒に仕事を行う為、仕事の中で覚え、自身で勉強もしているので、今のところ不便はない。雇用当初は前例も無く、言語の問題や理解できない人と一緒に仕事をするのは大変だった。年々成長し、最初に入国してきた人たちが通訳する立場になり、生活面でも指導してくれるといったようになり、助かっている。

山田：何年雇用しているのか。

風岡：17年前から雇用している。一時期雇用していない時期もあったが、再開して8～9年経過している。初期から雇用しているベトナム人一人を課長にした。きちんと教育をしていけば、将来貴重な社員になっていくと思う。エンジニアだと、母国から家族も連れてくることも可能となり、永住権を取得して日本で仕事を続けて頂くこともできる。

山田：セミナーを通じて、輪ができると、エージェント等の口コミで、春日井市で実施していることが広まると良い。セミナーを開催すると、母国者同士は絆が強くなるので、輪が広がると良い。

風岡：日本語教室の2回目はどうだったか。

堀部：2回目から職員が当番制となる為、正確なことは分かりかねるが、6名の受講者の中に一人能力が高い方がおり、他の方と別のテキストを使用したりなど臨機応変に対応して頂いている。

風岡：コミュニティが一つできると、同国者同士仲が良くなると思う。

SNSの中では繋がっていても、リアルの勉強会等で繋がっていくと、優秀な外国人が集まりやすくなるのではないか。

議題（2）外国人雇用状況調査アンケートの集計結果について
事務局より8月に調査したアンケート集計結果について説明。

部会員数746件に対し283件の回答があり、回答率は37.9%となった。回答があったうち、外国人雇用をしている企業は76件。全体数の約27%が雇用していることが分かる。

【各雇用形態（回答76件）】

- ①技能実習生→38件の回答。ベトナムが圧倒的に多く、次いで、中国となる。受入団体も監理団体が圧倒的である。
- ②派遣労働者→14件の回答。全体の約20%であった。ベトナム人に次いで、フィリピン人が多く就労している。受入れ団体は、派遣会社と監理団体が多い。
- ③正社員→40件の回答。全体の半数以上を占めている。ベトナム人が一番多く、中国人と比較しても倍以上雇用していることが分かる。受入れ団体も監理団体が多い中、直接雇用している企業もあった。
- ④アルバイト→17件の回答で全体の20%程度。フィリピン人が最も多く、ベトナム人は少ない結果となった。直接雇用が全体の70%程度占めている。

技能実習生や派遣労働者とアルバイトでは雇用状況も異なることが分かる。

【取組みについて】

ベトナム人向けの日本語教室のニーズが圧倒的に多く、次に技能講習（フォークリフト等）のニーズも高く、全体の60%を占めている。今年度は外国人向けのフォークリフトも実施予定だが、次年度は、技能講習のメニューを増やして実施検討をしていきたい。今回、中部技能センターにて実施するが、様々な技能講習の取扱いをしている為、併せて検討していきたい。

たい。

雇用をしていない企業の理由としては、雇用の必要性がないが最も多い。その他では、勝手に退職・転職、長続きしなかった等、否定的な意見が多くみられた。その中でも、受け入れ企業側としてのコミュニケーションや生活習慣等の不安があるのが気になった。今後、これらの懸念事項を緩和できるような情報提供として部会を通じて行っていきたい。

【その他部会事業についての意見】

技能講習を春日井近郊に母国語で受講できる教習所がなく、県外で取得した経緯があるとコメント頂いた。今回、問題解決に繋がるような案内ができると思われる。また、外国人より日本人の教育をしてほしいという意見もあり、受入れ側の勉強も必要かと思われる。先程部会長より意見があった内容がアンケート結果にも反映されてきているのではないかと。

風岡：外国人の雇用について検討が始まったのが、生産人口が減少し高齢化が進む中で、事業を継続させる為に、近い将来、外国人に頼る必要が出てくる時が来るであろうと言われていたから、今があるようなものである。企業が多忙・人手不足等の問題から外国人に頼っていたが、コロナ禍で状況が変わりつつあり、このような結果になったと思われる。今後、経済活動も活発になれば、また変動するであろう。皆様の企業の状況について伺いたい。弊社の状況としては、実習生が入国できない状況が続いていた為、今年5月頃より日本人の求人募集を掛けたが、集まらない。募集が極端に減少した。モノづくりを止めるわけにはいかないの、派遣会社にも求人を出したが同じような状況。今月初旬から派遣会社を通じて来て頂いている。人手が足りないと感じている。

加藤：工業系の高卒を雇用しているが、今年上場企業での採用が多く、紹介できる人がいないと言われてしまった。一次募集で大半が大手企業の就職、余っている学生も二次募集で即採用が多く、弊社は0となってしまった。途中で募集を掛けているが、派遣会社に依頼しているが、非常に厳しい状況である。昨年は2名採用。

風岡：高校も統廃合するなど、学校数の減少や子どもの減少が原因。改善されるどころか加速し、生産人口も減少傾向にあると思われる。

山田：弊社も募集しても集まらない状況。中途採用の求人募集を行っている状況。たまに応募があるが、転職を繰り返し長続きしない方ばかりなので、困っている。派遣会社へ依頼しても、回すことができないと言われるので、皆さんと同じ状況である。昨年度は、新高卒3名を採用したが、今年は1名見学に来た程度。退職した方を含め、人数が減少している。東南アジアのロックダウンにより、部品が輸入されない。約30%減の出荷量となり、タイミングが良いのか悪いのか、なんとか回せているような状況である。この先、出荷量が増えた時は人手不足となる。

風岡：外国人雇用については皆で考えていく必要がある。次年度また同じアンケート調査をする頃には、現在雇用の必要性がない企業の比率が大きく変動すると思われる。恐

らく、正社員の方はエンジニアだと思われる。実習生とエンジニアが中心となると思われ、派遣だと業種にもよるが、割高になると考えられる為、直接雇用するのが良いと思う。その為にも部会で情報発信していきたいと思う。

秋山：現在、人手は足りている。以前、中部大学に求人募集を掛けた際、当時の大学の求人担当者に「小さな会社は学生に見向きもされない。」と言われたことがある。ネットでの求人募集で応募された方が多く、当時は2名程度採用した。

風岡：技術職（研究、設計、開発等）の人材は今後も増加すると思われる。製造・モノづくりに携わっている方を募集しようと思うと、厳しいと感じる。この場で共有しただけでも様々な意見が出たので、今後も皆で考えていく必要がある。

アンケートの集計結果で、生活習慣や日本語教育についても各国に対応出来るようになれば大きな進展になると思う。皆様から頂いた意見を今後の事業計画に取り入れていきたいと思ひます。

議題（3）拡大に向けた部会の取り組みについて

風岡部会長より、資料に基づき説明。

現在、組織拡大委員会の副委員長を兼任。会議所の会員増強の為に取組んでいる。取組みとしては、紹介や事業参加頂いた方に入会して頂く等をして着実に増加傾向にある。今年度4,300会員数を目指しており、近い数字になってきており、達成できると思われる。製造業部会だけで見ると減少。建設業やサービス業は増加傾向にある。部会として同業者のご紹介が必要不可欠となる為、是非ともご協力頂き、ご紹介頂きたい。紹介いただければ、事務局でフォローをし入会促進に繋げていきたい。来年度は新たな目標を掲げる予定。全国商工会議所の会員規模で見た結果、12位であり、レベルは高いと思われる。

近隣だと豊田商工会議所が1位で豊田市内の事業数の比率に対し50%以上が会員である。全国10位には入りたい。当所の入退会の比率は入会が多い。本日の資料に未加入事業所紹介シートがあるので、是非とも協力をお願いしたい。

議題（4）次年度製造業部会事業について（意見交換等）

事務局より、令和4年度の重点項目を3つ検討している旨説明。

① 部会再編

→第1部会（食品製造、繊維、木造、紙パルプ等）と第2部会（電気、機械、金属等）で分かれているが、事業も合同で実施することが多く、分けることに対し見直しをして、製造業部会としたい。役員議員については3年で1期となる。第19期は令和4年10月までとなる為、次年度が改選期となる。改選に合わせて部会も再編したいと考えている。

② 脱炭素社会実現に向けた企業支援

→省エネルギーセンターが省エネ診断を実施している。省エネや節電をテーマに説明会・セミナーを実施する際、講師を無料派遣して頂くことが可能であり、今後部会事業で説明会並びに相談会を実施していきたいと考えている。

③ 外国人労働者雇用支援、職業能力の開発促進

→外国人向けの講習等を拡充していく予定。

意見要望については、2項目を事務局案として提案。

① 省エネ・脱炭素・ノンフロン設備導入支援助成金の創設

→東京都がノンフロン設備導入（冷蔵、冷凍設備）で取り組んでおり、1/3の補助率で上限が500万円の助成を行っている。春日井としても製造業等の工場の脱炭素化を進める為に春日井市に要望したい。

② 立地用地取得事業助成金の拡充

→春日井市の企業支援ガイド参照。市は企業誘致に力を入れている中、産業誘導ゾーンに新設・増設した企業に対し、助成率等の引上げ等の拡充を提案したい。次年度春日井市へ要望を提出したい。

蟹江：春日井市への要望に対して、ご意見・ご要望を募集したい。

また、次年度事業について、中部技能センターの資料にて確認頂きたい。フォークリフト以外にも様々な技能講習を開催しており、次年度新たに、ガス溶接・アーク溶接の講習を検討したいと考えている。また、外国人向けのフォークリフト技能講は本日の資料にあります。これから募集予定となる。次年度以降も複数回開催予定。

風岡：今後、脱炭素社会に向けた企業支援が増えてくると思う。内容を知って頂く為にセミナーの実施が良いのでは。意見要望についても、部会としての意見として要望していきたい。他に意見・要望や困りごと等がありましたらお伺いしたい。

加藤：カーボンニュートラルについて、取引先から計画書を提出してほしいと連絡があった。内容を確認したところ、高度な質問が記載されており、困っている。恐らく2018年が基本となり、どれだけの電力とガソリンを使用し係数と排出量を集計中。とりあえず本社のみで作成しようと試みている。流行りのSDGsや脱炭素について取り組むのは大変。現在困っているのは、原材料を使用するのに原材料の環境に優しいものかどうかFSC認証制度を取得チャレンジしたいが、同業他社がアタックしてくる為、頭が痛い。

風岡：どの企業も脱炭素社会に向けて動き出していると思う。実現に向けて学んでいくのが大切だと思う。

山田：DXについて、分かりやすいと言われているセミナーを受講しても弊社にどう活用すれば良いのかが分からない。他社がどのように取り組んでいるのかが知りたい。

仲野：3/2のセミナーにて事例を踏まえて実施予定。

風岡：先日の講師との打合せに参加した。DX と聞いても分かりにくいですが、セミナー自体は比較的解りやすい内容で進んでいくと思われる。手書きからタブレット端末での作業も DX に該当する。学んだ内容を皆で共有していくことが DX 活用になってくる。一つ一つやるのが大切であり、セミナーを聞いて頂くと良い。

蟹江：講師からの（案）で「ちょっとのことでビジネスが変わる！小規模事業者の為のデジタル化セミナー」のタイトルで行う予定。内容は①最近よく聞く DX って何。②世の中で起きているデジタル化の動向。③小規模事業者だからこそできるデジタル化事例とデモを予定している。

秋山：小さな会社である為、脱炭素には当てはまらない。

知人の会社に訪問した際、助成金目当てで会議所に加入したが、メリットがなく、退会しようかなという企業があった。設備投資の為、融資の為に加入しても、その後のフォローがないとの状況だった。紹介する側としてもメリットを伝える必要がある。

風岡：退会理由の中に、メリットなしの方もいる為、退会防止としてもっと魅力を伝えていく必要がある。

協議の結果、意見を踏まえた事業計画を立てていくこととした。

風岡：日刊工業新聞より「新製品情報誌」特別企画として、新聞ではなく冊子になっており 1 月号に春日井市の製造業に特化した内容を特集したいと話があったので紹介したい。掲載料は 1 コマ 50,000 円。昨年度も同様に話があり実施した。弊社も掲載して頂いた。事業に関することよりも監理団体と複合した内容での問合せが数件あり、効果はあったように思うが、来年も推薦させていただく形で良いか。

承認を受けた為、事務局より改めてご案内をしていく予定。

議題（5）その他

あいち産業科学技術総合センター 共同研究支援部工学博士小久保弘樹氏より施設等紹介

小久保：当センターは万博跡地に位置している。工業系企業の支援機関にあたる。トラブル解決の為の機器分析、シンクロトン光、積層造形（3D プリンタ）、EMC（電磁両立性）等の試験を実施している。民間と比較し 1/10 程度の金額で試験が能。現在、コロナ禍で試験依頼が減少している中で、手数料減免の措置を講じており（公的機関での融資を受けていることが条件）、半額程度で利用いただける。

その他、様々な試験依頼の実施や技術相談、カスタムできるセミナー等実施している為、ニーズに合わせて利用頂けるので、是非活用頂きたい。

風岡：説明があったが、試験依頼やご興味がありましたら個別に問合せ頂ければと思います。

以上、会議終了（15：00）